

17番 米永 あつ子 議員

1 環境問題について

- (1) 鹿屋市におけるごみ収集時の課題は何か示されたい。
- (2) ごみの減量化を図ることが経費節減にもなり市民への負担軽減につながり、中でも生ごみの減量化は市民協働で行わなければ成り立たない。生ごみたい肥化の普及促進のために電気式生ごみ処理機のお試し貸出事業を実施する考えはないか。
- (3) 指定ごみ袋有料化導入によるごみの減量と再資源化の効果について示されたい。
- (4) レジ袋(大)と同じ程度の大きさの鹿屋市指定ごみ袋を店舗でバラ売りをし、レジ袋としても指定ごみ袋としても利用できるようにする考えはないか。レジ袋をごみ袋として活用することで、利用者の経済的負担軽減や利便性を高め、かつ、環境負荷の軽減も得られると考えるが見解を示されたい。
- (5) 清掃ボランティア活動の支援策について示されたい。

2 平和ミュージアム構想について

- (1) 「非核・平和宣言都市鹿屋」として、市民一人一人が、戦争の悲惨さ、平和の尊さについて知る取組を更に強化すべきだと考える。「平和の花束」の展示や朗読音声の活用、「鹿屋の記憶」の視聴ができる平和ミュージアムを設けて、更なる平和学習の充実を図る考えはないか。
また、平和ミュージアムを平和学習ガイドの拠点として活用する考えはないか。

3 新型コロナワクチン接種事業について

副反応については、予防接種法に基づき、副反応疑い報告制度の仕組みが設けられ、国は、接種後に生じる副反応を疑う症状を収集するとともに、厚生科学審議会の意見を聞いて必要な措置を講ずることとなっている。本市は新型コロナワクチン接種推進室を設けて大規模に接種を勧めてきた現状を鑑みれば、市としても副反応の実態把握に努め、その件数を含め情報を公表し、追跡調査をする必要があるのではないかと考える。

17番 米永 あつ子 議員

- (1) 市内のコロナ禍における自殺者の数(年代別、主な理由)、コロナワクチンによる後遺症の相談件数(年代別、主な症状)、鹿屋市として取りまとめた副反応の件数(年代別、主な症状、その中に死亡や重篤な報告があったか)について示された
い。
- (2) ワクチン接種を勧めてきた鹿屋市として、副反応で苦しむ人たちが生じた場合
の支援体制は整っているのか。
- (3) ワクチン接種は選択制だったにもかかわらず、未接種者に退職を促すなど不利
益になるように働きかけるなど、職員間や学校の現場で「接種を強要」するよう
な人権侵害や同調圧力はなかったか。各事業所・学校・施設などに対してアンケ
ート調査等を行い、新型コロナが5類に転じたことを機に次期起こり得るパンデ
ミックに備え検証をすべきではないか。
- (4) また、鹿屋市として、接種を強制するような同調圧力がないように市民に呼び
かけるとともに、接種をめぐる差別や同調圧力で悩む人たちの相談窓口を設ける
べきではなかったか述べられたい。